

やる気の明倫子

小山町立明倫小学校 今年度の重点目標

《伸びを 認め合う》



全国学力・学習状況調査からみえる明倫小の子ども

校長 岩瀬 守

全国学力・学習状況調査の結果について、文部科学省と小山町の検証結果（「小山町の教育」という保護者向けリーフレット）を受け、明倫小の成果と課題を明らかにし、更なる学力向上に取り組んでいきたいと思えます。

なお、この調査は「学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる」ためのものであり、全国平均を上まわったとか本県の全国における順位を競うのが趣旨ではありません。

明倫小の全体的な傾向

調査実施教科（国語・算数）において、概ね学習内容の定着が図られています。正答率でみると、全国平均や県平均が極端に低い問題で、本校がかなり高い正答率を示した問題がある一方、その逆を示す問題もあり、平均して上まわっているとはいえ正答率のバラツキ（得意・不得意分野）を含んでいる点は、今後の取組課題といえます。

国語にも、算数にも全員が正解できた問題（学習内容の着実な定着）がみられたことは立派な成果といえます。



教科ごとの成果と課題

国語

○成果	●課題
○ 図表やグラフを用いて、事実や結果などの根拠を示しながら自分の考えを記述する力が身に付いています。	● 物語を読み、場面の移り変わりに注意しながら複数の叙述を関連づける力が不足しています。
○ ローマ字表記の力が身に付いています。	● 漢字の書き間違いが見られました。
＜対策＞ 物語の読み取り場面では、場面の移り変わりに注意させる手立てとして、しるしをつけたり、線を引いたりさせること等を通して、複数の叙述を関係づける指導を継続的にすすめていきます。	

算数

○成果	●課題
○ 小数点の概念の理解が身に付いており、末尾の揃っていない小数の加法計算など問題を解く力が定着しています。 ○ 図形の問題で、面と面の位置関係を把握する力が定着しています。	● 数学的な考え方を問う問題に関する力が不足しています。
<対策> 計算問題では、確かめ算の励行を徹底して指導していきます。 「なぜ」「どうして」といった疑問や課題を追求する場面を、授業のなかで意図的に設定し問題解決的な学習をすすめながら、児童による説明場面を増やすことで、説明する力を伸ばして行きます。	

生活実態調査より

並行して実施された生活実態調査から「生活や学習の状況」をみると、メディアに触れる時間が長い傾向がみられます。スマホやインターネットを介してのゲームなどにより基本的生活のリズムが崩れている児童ほど、学力も伸び悩んでいる傾向がみられました。

今後の取組について

◎ 読み取りの力を付けるため、朝の活動（月曜日と金曜日の読書タイム）や読書月間（6月と11月）を充実させ、ノーゲームデーの充実と併せ、活字に目を向けさせる支援を進めていきます。

◎ 基礎的・基本的な学力定着への取組として、漢字ドリル大会と計算ドリル大会は今後とも継続していきます。

◎ 引き続き各授業時間のねらいを明確にし、児童の課題意識を大切にした授業を進めていきます。

